

ジェンダーギャップ指数が12年連続世界一というアイスランドで、2017年から首相を務めるのが「緑の党」党首でもあるカトリーン・ヤコブスドッティル氏(45)です。

社会正義、女性解放、自然保護、平和政策をとりまく価値観とビジョンを明確に掲げ、立場の弱い人々に寄り添っていく姿勢が国民から支持されています。新型コロナウイルスの対応も迅速で的確でした。感染経路を正確に追跡するなどし、感染拡大による犠牲を最小限にとどめました。

ヤコブスドッティル氏が

型破りな飾らぬリーダー

【カトリーン・ヤコブスドッティル】

首相になるまでの経歴は、政治家としては異色です。大学で文学を研究し、アイスランド文学の修士号を取得。その後は、放送局でポ

Style アイコン

クの仕事にも関わりました。「アイスランドのような小さな国では、誰もが様々な役割を演じなければならぬ」と彼女は雑誌のインタビューで答えています。「首相への道」というテンプレート(ひな型)に

はかけらも収まっていけません。人文学によって美徳と資質を磨き、



(インスタグラムから)

その美質を社会のために最大限に発揮した結果、首相の椅子に導かれたというユニークな道筋が見えます。公務での装いも「政治家らしい」テンプレートからは逸脱しています。テイラードスーツ姿はほぼ見当たらず、ニットやジャンプスーツ、シャツにカーディガ

ン、ワンピースにタイトな多様なスタイルを着こなしています。アクセサリーはほとんどつけません。威厳をまとおうという気負いもなく、「不思議かわいい」引力に引き込まれます。自然体で周囲に調和をもたらす存在の方は、時代が求める模範的なリーダーシップで

はないでしょうか。SNSで語りかける政治観の中には、「時折向かい風が吹いてもそれに耐え、諦めないようにしなければなりません」といった表現もあります。そんな詩的で強い言葉も人心をまとめ上げるのに貢献していると思われまます。

個々の美徳を武器に、愛と共感に基づく指導力を発揮し、社会をフェアに包摂する。そんなリーダーの時代が訪れていることを、ヤコブスドッティル氏はじめ世界の若き女性首相たちは笑顔で示しています。

(エッセイスト 中野香織)